

「防災」をキーワードに

地域版ハザードマップ作成



参加してよかった!

すでに地域活動に取り組んでいる中高年から小さなお子さんを持つママや大学生まで、幅広い世代が参加した今回のセミナー。それぞれの感想にも異なる視点があります!

第三者的な視点が大事。何げない場所に危険がいっぱい

わずか1時間ほど歩いただけでも、危険な箇所がたくさんありました。用水路のグレーチング(金属製のふた)も、留め具がないものは増水時に外れてしまうなど、大丈夫だと思っ



松本わかかなさん

子どもと一緒にチェックして普段の生活に備えたい

普段、自分が住んでいる校区を歩く時は、「防災」を意識して歩いていないので、発見することはばかりでした。特に、子どもたちの身近なところに危険がたくさんあるので、(子どもを)連れてくればよかったと後悔しました。子ども自身が危険箇所を知ることで気を付けられると思うので、今度、校区内を一緒にチェックして回ります。



栗林直子さん

「地域のために」という意識がますます高まった!

普段から無難地区のまちづくりに携わっています。無難エリアのポータルサイトの運営にも関わる予定なので、今回体験したことがさっそく生かせると思います。地域版ハザードマップの作成は、地域住民が参加するだけでなく、一人一人が主体となって取り組むことが重要。すばらしい地域をつくるために、楽しみながらやっていきます。



堂原秀文さん

子どもや高齢者の立場に立った危険予測が大事

大学のゼミ活動の一環で参加しました。何げなく歩いている道も、「防災」という視点で見ると、さまざまな所が目にとまりました。講師の佐藤さんから、「元気な世代だから気付かないこともある。高齢者や子どもの立場に立って歩いてみて」と言われたのが印象的。実際に歩いて作ったハザードマップだけに、現実味がありません。



上原佑野さん

アプリに頼りっぱなしでマップが使えない...

熊本地震の影響からか、ヒビの入ったブロックなど、危険箇所がたくさんありました。これまでハザードマップを見る機会がなかった上、普段はスマホの地図アプリを使っているため、いざというときに平面地図の見方が分からないことに気付きました。ハザードマップを使いこなせるよう、日常的に見るクセをつけたいと思います。



平田加奈さん



用意されたA1サイズの大きな地図を使い、地域版ハザードマップを作っていきます



フィールドワークの際に撮影した写真を地図上に貼り、危険箇所をよりイメージしやすくします

マップ作成の際、地図上に落とし込むアイコン、それぞれのアイコンのシールを地図に貼っていきます

地図に落とし込むことで、地域に潜む災害時の危険を「見える化」

フィールドワークから戻った参加者は、5〜6人ずつのグループに分かれ、それぞれに総務企画課の職員のアドバイスを受けながら、地域版ハザードマップの作成に取り掛かりました。行政が作成する広域のハザードマップと違い、自分の住む町内単位で作る「地域版」は、より身近な地域の危険箇所や役に立つポイントを地図上に落とし込むことで、災害が起こった際に自宅や学校などから、どのように避難場所へ向かえばいいかを把握するためのものです。参加者は、この日歩いた地域の白地図に透明シートをかけ、そこに主要な道路や川を色付け。そこに、危険箇所のほか、病院やコンビニなどのアイコンシールを貼り付けていきます。さらに、コース上の危険箇所を撮影した写真を貼付することで、地域に潜む災害時の危険をどんどん「見える化」していききました。

第3回セミナーのまとめ

ハザードマップ作りは、地域の絆づくりにもつながる!

今回、自分たちの住む地域を想定してフィールドワークと地域版ハザードマップ作成を体験してもらいました。しかし、ハザードマップ作りは、あくまでも手段です。「災害」や「防災」という、誰にでも関わりやすいテーマをきっかけに、地域の人々がコミュニケーションを取り合うことでお互いを知り、結果として地域の絆を深めることにもつながります。また、地域版ハザードマップは、「作っただけ」ではなく、その後「どう生かすか」が大事。次回(第4回)のセミナーでは、皆さんと一緒にその点を考えましょう!

地域版ハザードマップには、こんなところも落とし込もう!

- 柵などのない用水路や側溝
柵やガードレールのない用水路は、雨で増水した際などに道路との境目が見えなくなり危険!
- AEDが設置してある店舗や施設
万一の際も、AED(自動体外式除細動器)がある店や施設を把握していれば、慌てず行動できます
- 消火栓
地域住民が消火栓の場所を把握しておけば、火災などの際、現場に近い消火栓を案内することができます
- 歩道の段差や傾斜
普段は気にならないわずかな段差や傾斜。災害の際には思わぬケガや事故につながることも

まちづくり探検隊・読者アンケート

「まちづくり探検隊」を読んで感じた、まちづくりや地域活動への興味・関心や、あなたが参加したい活動などを教えてください!



① あなたは普段、まちづくりや地域活動について関心がありますか? (○は1つだけ)

1. とても関心がある 2. やや関心がある 3. あまり関心がない 4. まったく関心がない

② (①で1または2と答えた方) どんな活動に関心がありますか? (○はいくつでも)

1. 清掃 2. まちなみ保全 3. 子育て 4. 青少年育成 5. 教育 6. 文化
7. スポーツ 8. 防犯 9. 防災 10. 高齢者福祉 11. 健康増進 12. 環境美化
13. 緑化 14. 観光 15. まちおこし 16. その他()

③ まちづくりや地域活動に参加したことがある、または参加していますか?

1. 参加したことがある(している) 2. 参加したことがない

④ (③で参加したことがあると答えた方) それはどんな活動ですか?

⑤ (③で参加したことがないと答えた方) その理由を教えてください。

⑥ 将来、まちづくりや地域活動に参加したいですか?

(現在参加している方は今後も参加したいですか?) (○は1つだけ)

1. 参加したい 2. どちらとも言えない 3. 参加したくない

⑦ (⑥で参加したいと答えた方) それはどんな活動ですか? (○はいくつでも)

1. 清掃 2. まちなみ保全 3. 子育て 4. 青少年育成 5. 教育 6. 文化
7. スポーツ 8. 防犯 9. 防災 10. 高齢者福祉 11. 健康増進 12. 環境美化
13. 緑化 14. 観光 15. まちおこし 16. その他()

⑧ 「くまにちすばいす」に寄って掲載している「まちづくり探検隊」を読んだことがありますか?

1. 読んだことがある 2. 読んだことがない

⑨ (⑧で読んだことがあると答えた方) 印象に残っている特集はありますか? (○はいくつでも)

1. 「江津湖の自然と水を守る会」の活動体験 2. 「池上校区ウォーターボーイズ」の取材
3. こども会の活動の取材 4. 消防団の活動体験 5. 校区自治協議会・町内自治会の活動の取材
6. 校区防犯パトロールの活動体験 7. 「川尻精養流し」の活動の取材
8. 特別編 第1回セミナー詳細 9. 「防災キャンプ」の活動体験
10. 総合型地域スポーツクラブの取材 11. 民生委員・児童委員の活動の取材
12. 「栗丘校区自治協議会長・上田恵美子さん」の取材 13. 特別編 第2回セミナー詳細
14. 交通指導の体験 15. こみステーションの取材 16. 清水校区社会福祉協議会の活動取材
17. 青少年健全育成協議会の取材 18. 地域コミュニティセンターの取材 19. どれでもない

⑩ (⑧で読んだことがあると答えた方) 「まちづくり探検隊」の紙面を
読む前と後を比べてみて、まちづくりや地域活動に対するあなたの自身の認識や行動に、
次に挙げるような変化はありましたか? (○はいくつでも)

<読む以前に地域活動に参加したことがあった方>

1. さらに興味・関心が高まった 2. さらに参加意欲が高まった
3. 参加する地域活動の数(または頻度)が増えた 4. 変化なし 5. その他()

<読む以前に地域活動に参加したことがなかった方>

6. 興味・関心が高まった 7. 参加意欲が高まった 8. 実際に地域活動に参加した
9. 変化なし 10. その他()

⑪ あなたの年代と性別を教えてください。

<年代>20代 30代 40代 50代 60代 70代以上

<性別>男性 女性

アンケートに応募いただいた方の中から抽選で30名に粗品を進呈

■応募方法

アンケート項目の回答のほか、氏名、郵便番号、住所、年齢、電話番号、メールアドレスをご記入の上、下記の要項でお送りください。

■対象

熊本市に在住または通勤、通学する20歳以上の男女

■はがき

〒860-8506 ※住所は不要です
熊本市日新聞社 業務推進局営業企画部
「かたってみようまちづくり」セミナー係
※個人情報保護法に基づき、連絡のみに使用します

■FAX

096(372)8711

■すばいすHP応募フォーム

右記のQRコードから飛べます

締め切り
1/31(木)

